

## 単元名 曲の形式を生かして歌おう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と形式や歌詞との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために音域や強弱に応じた発声、鼻濁音の発音などを身に付けることができる。
- (2) 曲想と形式や歌詞との関わりについての知識や、音域や強弱に応じた発声、鼻濁音の発音などの技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を工夫することができる。
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10260201\_001

【教材名】夏の思い出 赤とんぼ ◆この道 (P. 14～P. 19)

【準備等】範唱音源、ワークシート、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 「夏の思い出」の歌詞や旋律のまとまりを理解して表現し、強弱の設定を生かして表現を工夫する。</p> <p>★「夏の思い出」を歌おう。</p> <p>○「夏の思い出」の歌詞を読み合わせ、内容を理解したり作詞者が思い浮かべた情景を想像したりする。</p> <p>○歌詞と旋律の関係を4小節ごとで捉え、表現する。</p> <p>○強弱の設定に基づいて工夫する内容を教科書やワークシートにまとめ、発表する。</p> <p>2 「赤とんぼ」の曲想を感じ取りながら表現を工夫して歌唱する。</p> <p>★「赤とんぼ」の曲想を感じ取りながら歌おう。</p> <p>○「赤とんぼ」が一部形式であることを理解する。</p> <p>○「赤とんぼ」の曲想を感じ取りながら表現する。</p> <p>3 「夏の思い出」や「赤とんぼ」をこれまでの学習で得た知識や技能を生かして表現する。</p> <p>★「夏の思い出」や「赤とんぼ」の表現を工夫して歌おう。</p> <p>○「夏の思い出」や「赤とんぼ」の表現の工夫をワークシートに整理し、グループで発表する。</p> <p>○これまでに得た知識や技能を生かして、歌唱する。</p> | <p>・旋律の反復や変化などを考えさせ、P. 84を参照しながら二部形式の補足説明をする。</p> <p>・タブレットでまなびリンクを活用して、尾瀬の情景を確認させる。</p> <p>・小楽節ごとの強弱の設定を確かめ、旋律のまとまりを意識して表現させる。</p> <p>【評】「夏の思い出」を歌唱する活動を通して「技能」を評価する。</p> <p>・P. 19を参照しながら、鼻濁音の発音の仕方を理解し、強弱の設定や音域の高低から曲の山場を考えながら歌わせる。</p> <p>【評】「夏の思い出」の表現の工夫を考えて発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・歌詞の内容、跳躍進行を多用した旋律とそのまとまり、一部形式などについて「夏の思い出」と比較しながら理解させる。</p> <p>【評】「赤とんぼ」を歌唱する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>・「赤とんぼ」の旋律の特徴や形式を生かした表現の工夫について考えさせ、教科書やワークシートにまとめさせる。</p> <p>【評】「赤とんぼ」の表現の工夫を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】曲にふさわしい表現の工夫を考えてグループで発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】これまでに得た知識や技能を生かして歌唱する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>【評】主体的・協働的に歌唱する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

「夏の思い出」を主教材にして、順次進行を多用した旋律、旋律のまとまりと二部形式との関係を理解して曲想を感じ取りながら表現することを目指す。そして、日本語の発音、強弱や音域に応じた発声などの基礎的な技能を身に付けながら表現を工夫する。「赤とんぼ」では一部形式や跳躍進行が多用されていることなどを理解して表現を工夫し、「この道」ではこれらの学習を生かして歌詞と旋律のまとまりとの関係に着目する。

【共通事項】リズム・旋律・強弱・形式・構成